

## (2) 市長の財政方針

令和3年度は、これまでの人口増加を背景に堅調に推移してきた歳入の根幹を成す市税について、今般の新型コロナウイルス感染症の影響により減収が見込まれる中、新型コロナウイルス感染症への対策による市民の安心・安全と経済の回復支援を両立することが求められている。このような中で、限られた財源を効率的・効果的に配分するとともに、全職員が合理的かつ効率的な事務執行に努め事業内容の見直し及び取捨選択による歳出削減を行い、持続可能な市政経営基盤の構築に努めていくことが必要となる。

「都心から一番近い森のまち」を具体的な都市のイメージとして掲げ、さまざまな施策を展開してきた結果、10月1日現在の常住人口は、約20万4千人となり、全国の市の中で、5年連続で人口増加率が1位となった。

一方、おおぐろの森中学校の建設をはじめ、子育て・教育施設の環境整備、名都借跨線橋等の道路橋りょうの整備、初石駅周辺整備など年次で実施を計画している事業を抱えた上に、保育所運営費、介護保険・後期高齢者医療保険への繰出金等社会保障費の増加による市の負担も増えており、歳出の規模も増大し続けている。

このような中で、必要な事業を実施するため、令和3年度予算については、国の補助金及び交付税措置のある地方債等を活用する等最大限努めながら、限られた財源の中で市民サービスの拡充を図るため、事業内容の見直し等を行った。

その結果、一般会計の歳入歳出予算を前年度と比較すると、前年度比13億3,500万円、約1.9%増の711億7,000万円となった。

また、特別会計及び上下水道事業会計を合わせた予算総額は、対前年度比1,495万8千円減額、前年度とほぼ同額の1,149億3,160万円となった。

今後も、費用対効果を念頭に置き、より少ない費用でより市民満足度が高い行政サービスを提供できるよう各種事業の見直しを行い、一層の効率化を図るとともに、後年度の財政負担に十分配慮しながら、安定的かつ継続的な市民サービスを提供できるよう持続可能な財政構造を構築していく。